

18

ふれあいランド岩手の活動(避難所運営・ボランティアバスへの添乗)

(1) ふれあいランド岩手の活動(避難所運営)

① 避難所開設状況

- 区 分 盛岡市指定「緊急指定避難所」
- 期 間 平成23年3月13日～平成23年6月27日(施設の利用再開 平成23年7月21日～)
- 開設日数 107日間
- 受入れ避難者数 193名
- 最大避難者数 114名(平成23年3月28日 午前9時時点)
- 避難者受入場所 写真①、②、③



①ふれあいホール(235m²)



②第1.2教養室(22.5畳、10.5畳)



③体育館(900m²)

② 避難所開設の経緯

- 3月11日の地震発生時、ふれあいランド岩手(以下「ランド」という。)ではふれあいホールや体育館など150人程の方が利用をしていました。プールはプールサイドの防滑工事で休業中のため利用者はいませんでした。
- 携帯電話などの「緊急地震速報」の後、大きな揺れがあり、すべての施設の利用を一時中断しました。その後も大きな揺れが続いたため、同日の利用を停止し利用者には帰宅して頂きました。
- 盛岡市内全域で停電となり、ランドの近隣の4家族10名程が、不安を訴え非常灯が点灯していたランドへ自主的に避難をしてきました。
- また、入居している県社協事務局職員が夜を徹して情報収集などを行っていることもあり、ランドにおいては、3月11日夜は、職員6人が施設に残り、施設の保守と情報収集などを行いました。
- 3月12日になり、電気が復旧してきたため、避難していた近隣の方も帰宅されました。ランドにおいては、施設の点検と情報収集などを行っていましたが、同日、緊急物資の受入集積場所として施設の一部を活用することについて、県から打診などがありました。
- 3月13日、施設の点検も概ね終わり、大きな異常がないことから施設の利用再開等について検討していたところ、午後、盛岡市の施設に一時避難した気仙沼市、陸前高田市の被災者(8名)について盛岡市から受入要請があり、県と盛岡市との協議を経て、盛岡市からランドが緊急避難所として指定を受けました。
- 同時に、盛岡市から毛布や保存食などの物資の提供を受け、夜には避難者が23名となり、避難所の運営がスタートしました。

③ 避難所の運営

- 避難所の運営は、主にランドの職員(30人)が交替で、24時間体制で対応しました。また、避難所設置

者の盛岡市でも2名の職員と保健師が駐在し、市本部との連絡、物資の確保や避難者の健康管理等の業務に従事しました。

・食事については、救援物資等を活用し、ボランティアの協力を得て職員が準備、提供をしました。3月13日の夕食から3月31日までは朝、昼、夕の3食を提供し、4月1日からは朝食のみ提供し、昼食、夕食

については、ランド内のレストランが盛岡市からの委託を受け提供しました。

・毛布や衣料、食料等の物資は、盛岡市が備蓄していた物の他、近隣の町内会をはじめ、多くの企業や団体、個人からの提供や県等への救援物資からも提供を受けました。

④ 避難者及び運営の状況

●市町村ごとの避難者数

岩手県							
宮古市	大船渡市	陸前高田市	釜石市	大槌町	山田町	久慈市	
12名	10名	26名	26名	75名	10名	2名	
宮城県			福島県			東京都	合計
仙台市	石巻市	気仙沼市	相馬市	南相馬市	双葉郡	大田区	193名
2名	1名	17名	4名	2名	5名	1名	

●月日別避難者数

月 日	人 数	月 日	人 数	月 日	人 数	月 日	人 数
3月13日	0人	4月9日	76人	5月6日	65人	6月2日	47人
3月14日	23人	4月10日	68人	5月7日	65人	6月3日	47人
3月15日	37人	4月11日	69人	5月8日	65人	6月4日	40人
3月16日	53人	4月12日	74人	5月9日	62人	6月5日	40人
3月17日	73人	4月13日	69人	5月10日	62人	6月6日	40人
3月18日	86人	4月14日	71人	5月11日	59人	6月7日	39人
3月19日	83人	4月15日	71人	5月12日	59人	6月8日	39人
3月20日	86人	4月16日	69人	5月13日	59人	6月9日	35人
3月21日	93人	4月17日	69人	5月14日	59人	6月10日	35人
3月22日	102人	4月18日	64人	5月15日	59人	6月11日	30人
3月23日	104人	4月19日	63人	5月16日	58人	6月12日	30人
3月24日	101人	4月20日	61人	5月17日	58人	6月13日	27人
3月25日	109人	4月21日	61人	5月18日	58人	6月14日	21人
3月26日	107人	4月22日	63人	5月19日	58人	6月15日	21人
3月27日	110人	4月23日	63人	5月20日	58人	6月16日	10人
3月28日	114人	4月24日	67人	5月21日	57人	6月17日	9人
3月29日	102人	4月25日	67人	5月22日	56人	6月18日	9人
3月30日	99人	4月26日	66人	5月23日	56人	6月19日	9人
3月31日	100人	4月27日	66人	5月24日	56人	6月20日	9人
4月1日	93人	4月28日	66人	5月25日	56人	6月21日	9人
4月2日	90人	4月29日	66人	5月26日	56人	6月22日	9人
4月3日	87人	4月30日	68人	5月27日	55人	6月23日	5人
4月4日	87人	5月1日	68人	5月28日	55人	6月24日	4人
4月5日	86人	5月2日	67人	5月29日	50人	6月25日	4人
4月6日	78人	5月3日	67人	5月30日	50人	6月26日	1人
4月7日	77人	5月4日	65人	5月31日	50人	6月27日	0人
4月8日	77人	5月5日	65人	6月1日	48人		

※ 各日、午前9時現在の在所数です。

● ボランティア団体等の活動

〈主なボランティア活動の内容〉

- ・避難者への食事準備及び提供
- ・救援物資の仕分け及び提供
- ・子どもの遊び相手及び学習サポート
- ・絵本の読み聞かせ
- ・看護師、保健師による見守り活動
- ・傾聴活動
- ・サロンの実施

〈協力いただいた主なボランティア団体等(3回以上ご協力頂いた団体)〉

- ・ふれあいランド岩手友の会
- ・盛岡地区更正保護女性の会
- ・盛岡市食生活改善推進員協議会
- ・三本柳地区3町内会(13区、北、南)
- ・岩手看護短期大学　・細田組　・武田薬品
- ・岩手農政局　・ボランティア朔風
- ・ボーイスカウト盛岡5団　・岩手県立大学
- ・なんでもやろう会

〈ボランティア受入までの流れ〉

- ・ふれあいランド岩手の避難所でのボランティア活動を希望する場合、盛岡市社会福祉協議会に活動希望内容、活動人数を申込み、併せてボランティア保険に登録します。
- ・活動日当日、ふれあいランド岩手で受付後、ペストを受け取ります。
- ・盛岡市職員から活動内容を確認し、活動を行いました。



[避難所の看板を設置]

● 主な炊き出し活動と協力者

提供内容	実施団体名
比内地鶏による焼き鳥、きりたんぽ鍋	比内地鶏生産部会
カレーライス	ステーキ & サラダバーけん
モンゴル焼きそば、スープなど	岩手モンゴル協会
豚汁など	都城市市議会
ケーキ、菓子など	北日本レストラン
おにぎり、カット野菜	びっくりドンキー
牛丼	すき家

● 主な慰問活動と協力者

提供内容	実施者名(団体名)
ポップ曲演奏	あんべ光俊
マンドリン演奏	清心
シンガーソング	光(ひかる)
復興支援ソング	滝桜(タキサクラ)
フルート演奏	中島誠一
和太鼓演奏	都南太鼓
吹奏楽、よさこいソーラン	盛岡市立見前中学校
マジックショー	マジシャンズクラブ

● 主な避難者対象行事等

行事内容	実施団体名及び場所
県被災者復興支援コンサート	岩手県立美術館
博物館見学会	岩手県立博物館
チャリティー試合観戦	横浜FC、グルージャ盛岡
動物園見学	盛岡市動物公園
散髪提供	(株)ヒラトヤ
入浴提供	喜盛の湯

● 主な避難者向け相談会等

内 容	実施団体名
災害減税法説明会	盛岡税務署
罹災証明説明会	盛岡市
心の健康相談	盛岡市保健所
年金なんでも相談会	盛岡市年金課
お困りごと相談会	岩手県司法書士会



[比内地鶏生産部会の炊き出し]



[マジックショー]



[（株）ヒラトヤの散髪提供]



[支援物資の仕分け]



[神戸からの応援メッセージ]

● 避難者向け支援物資等

〈支援物資の内容等〉

物資は多くの企業や団体、個人から提供頂きましたが、その内容は、毛布や衣料、生活用品、学校用品、食料品、飲料、玩具など多岐にわたり、また、日本赤十字社からは空気清浄機（3台）の提供を受けました。

避難所の閉鎖に伴い、残った支援物資は盛岡市に引き継ぎましたが、その多くは、「東日本大震災被災地復興支援ボランティア拠点施設、盛岡市かわいキャンプ」（平成23年7月6日～平成25年3月29日）で活用されました。)

〈保管場所〉

第1卓球室、第2卓球室

〈支援物資受入から配布までの流れ〉

- ・ 提供希望者より盛岡市職員が連絡を受けます。
- ・ 受入可能かを調整し、可能な場合は受入を伝え持参して頂きます。
- ・ 受入した物品を一時保管のため、第1、2卓球室に保管します。
- ・ ボランティアの協力により種類ごとに仕分けを行います。
- ・ 避難している方に、必要な物品の確認を行います。
- ・ エントランスホールに種類ごとに置き、希望の物がある場合引き渡しを行います。

ボランティアバスの活動

（2）ボランティアバスの活動

① ランド職員のボランティアバス添乗

平成23年4月8日、大槌町への運行からスタートしたボランティアバス（以下、「ボラバス」という）には、運行業務委託先の名鉄観光サービス株式会社盛岡支店の社員と共に、ランド職員が添乗し、山田町、大槌町、陸前高田市の各災害ボランティアセンターに出向きました。

添乗職員は、当日のボランティア受付に始まり、バス

に同乗し現地でのボランティア活動に従事し、活動終了後は各災害ボランティアセンターで報告を行ったのち、ランドに戻るという役目を果たしました。

② ボランティアバス運行の内容

❶ 集合～発車までの対応

ボランティア参加者の集合場所は、盛岡駅周辺の公共施設と、ランドの2か所に設定しました。これは、岩手県に来る参加者の交通手段を考慮し、電車で来る方は盛岡駅近くからバスに乗車できること、自家用車で来る方は、ランドの無料駐車場に駐車し、バスに乗車できるように対応したことによるものです。

バスの発車時刻は、盛岡駅6時30分、ランド6時50分に設定しました（その後、電車の乗り継ぎ時間に合わせ、盛岡駅6時40分、ふれあいランド岩手7時に変更）。

当日の朝は、ランドエントランスホールでボランティア参加者の受付を実施。受付は添乗職員と名鉄観光社員で行いました。参加者の氏名、当日の行先、ボランティア保険への加入の有無を確認し、保険未加入の場合、災害ボランティアセンター職員がその場で加入手続きを行いました。

また、受付時にボランティアセット（ミネラルウォーター、マスク、消毒薬、湿布等）をボランティアの方に配布しました。

❷ 現地到着までの対応

受付終了後、参加者はバスに乗車します。添乗のふれあいランド岩手職員が点呼を行い、名簿チェックし乗車人数を確認後、各地に向かって発車しました。現地へ向かうバスの車内で、5～6人単位の班を編成し班長を決めました。なお、後半の時期には、ボランティア活動への参加回数の多い方が、班長を引き受ける傾向が多く見受けられました。

車内では、日程と注意事項の説明も行いました。主な注意事項は以下のとおりです。

- 「活動中、余震の発生や津波警報が発令された場合は速やかに活動を中止し避難すること。」
- 「釘などの踏み抜きによるケガに注意すること。」
- 「活動中は適度に休憩時間を取り、水分補給を行うこと。」
- 「活動の様子を写真撮影する場合には、依頼者や地域住民に十分に配慮すること。」
- 「瓦礫であっても、元々は依頼者の家財なども含まれるため取り扱いには十分注意すること。」

現地までは盛岡市から約2時間かかる道のりのため、いったん道の駅などで休憩を取りましたが、休憩時を利

用し、参加者の昼食申込の確認、代金受取を行いました。

❸ 現地到着から業務終了までの対応

現地には9時頃に到着。災害ボランティアセンターで各班長とともにニーズの確認、活動場所の確認を行い、必要な資機材を借用しました。スコップなど必要最低限の機材は参加者が持参し、大型バールなどは現地で借用しました。添乗した職員もボランティアと同様に活動に従事し、学校の校庭、公共施設や個人宅などの瓦礫の撤去、道路や側溝の泥の撤去などを行いました。

活動中は、参加者の体調を考え、天気の様子を見ながら休憩を促したり、水分補給などの声かけを行いました。昼食を挟んで午後3時頃まで活動し、活動終了後にはケガの有無などを確認し、ボランティアセンターに戻りました。

ボランティアセンターでは、活動内容と今後の継続の必要性などを報告、借用した機材を洗浄し、返却を行いました。

帰路につく際は再度、参加者の点呼と体調確認しランドに向け出発。ランドに到着し、添乗業務は終了となりました。

③ 添乗した経験から

ボラバス添乗員として、ボランティア参加者に対して下記の点に注意しました。

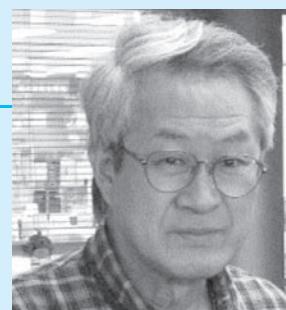
- 余震が頻発している時期でもあったため、余震の発生、津波の発生に備え、添乗員は避難可能な場所を確認しておき、万が一危険が発生した際には参加者自身が身の安全を優先できるようにすること。
 - 場所によっては釘、ガラス破片などが散乱している所もあり、ケガの無いように注意すること。
 - 気温の上昇が予測される場合は、冷却スプレー、塩飴など熱中症予防のための準備をすること。
 - 適度な休憩が取れるよう、時間配分に注意すること。また、現地とのやり取りの中で感じたことは、次のとおりです。
 - 活動場所や活動内容について、連絡の手違いかボランティアセンタでマッチングの際に聞いたことと違っており、ボランティア参加者が混乱することがあったこと。
 - 活動内容が伝わるのが当日であったため、事前に必要な用具等の準備ができなかったこと。
- ボランティアセットの作成については、緊急支援物資の保管場所である岩手県産業文化センター「アピオ」にて行いました。

④ 名鉄観光社員の業務内容

ボランティア活動希望者の受付は、名鉄観光が取りまとめを行いました。

- ・ボランティア参加者を募り、名簿を作成します。
- ・当日、名簿を持参しランド着後、ランド職員と活動内容などの打ち合わせをします。
- ・バス乗車後は、活動ボランティアセンターに人数の報告をします。
- ・その後は、添乗職員と同様に活動を行いました。

ふれあいランド岩手
前館長 倉本 正次



平成23年3月11日の深夜、「光を求めてランドに着いた。」との被災者の方の言葉が思い出されます。あの悲惨な災害と被災地の復興の現状、被災者の皆様の置かれている状況やご心情を思います時、自分は何をやったんだ?これから何をやるんだ?自問させられています。懸命な思いの職員と共に避難所の運営に携わさせていただいたのがいくばくかの心の慰めであります。経験のない避難所運営。県内外の個人、団体など数多くのボランティアの方々の支援の輪。暖かさや心の触れ合い。大きくて細やかで頼もしい力でした。感謝の一言です。被災者の皆さんとの時折の微笑み、病気からの回復、子供達の入学、お父さん達の就職、故郷への出立など等、避難者の方々、職員、ボランティアの方々との喜びと涙の混じり合ったと避難所生活の仲間達でありました。どうか、被災地の復興が進み、被災者の皆様の心が癒され希望の光が灯りますよう。あの災害を忘れることなく、何らかの形で関わり続けたいと思っております。